

愛媛大学

南予水産研究センター

South Ehime Fisheries Research Center

年 報

第12号 2019年度版



# 目 次

はじめに	2
1. センター組織と研究概要	4
(1) 組織の概要	4
(2) 各部門の研究概要	5
(3) 教職員一覧（2020年度）	5
2. 研究者要覧（専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2020年度）	8
3. 研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2019年度）	14
4. 研究成果（2019年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）	17
5. 学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2019年度）	24
6. 教育活動（専任教員・2019年度）	26
7. 地域・社会連携活動（2019年度）	32
(1) シンポジウム，講演会，展示などの開催（主催，共催，後援等）	32
(2) 地域特別研究員との共同研究	32
(3) 各種行事への参加	33
(4) 地域連携教育	33
(5) 一般向け講演等	33
(6) 一般向け雑誌記事等	34
8. 新聞記事・テレビ出演等（2019年度）	35
9. センター視察・来訪者（2019年度）	36
愛媛大学南予水産研究センター規則	37
愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程	40
愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿	42
愛媛大学南予水産研究センター参与会要項	43
愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿	44
愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項	45
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項	46
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿	47

## はじめに

少し唐突な話ですが、東海大学の研究によると（田口ほか、東海大学海洋研究所研究報告，2011），我が国には 1000 を超える水域生物の供養碑が建てられており，愛媛県でも 50 以上の碑があるようです。これらには，鯨やウミガメのほか，多くの魚，イカ，エビ，カニ，貝類，海藻，果てはカエルなどの碑もあるそうです。水域生物に限らず，家畜や愛玩動物などの生き物を広く供養するというのは諸外国にはあまり見られない慣習，習俗で，日本人独特の自然観に基づく生き物への畏敬と感謝の心を表すものなのでしょう。このような心は，自らの命をつなぐため以外の目的で生き物の命を奪わざるを得ない研究活動を行うにあたっては特に重要で，医学部などでは実験動物の供養祭が毎年営まれており，水産関係の研究施設にも供養碑を設置しているところもあります。そこで当センターでは，令和という新しい時代を迎えたこと，そしてセンターが設立後 10 年余を経て地域に深く定着してきたことを機に，これからも長く地域と共に歩いていくという決意も込めて，2019 年 10 月に西浦ステーションにささやかながら魚介類の供養碑（写真）を建てました。さらに，2020 年 2 月 13 日には地域の水産関係者の方々をお招きして，供養碑の除幕式と供養祭を開催し，この模様は NHK のローカルニュースや愛媛新聞でも紹介されました。今後は，毎年 2 月下旬ごろ開催している卒業論文，修士論文の発表会の日に供養祭を開催し，1 年間の研究成果を報告し感謝を捧げることにしています。

さて，本年報の掲載対象である 2019 年度の活動の中で，大きなトピックとしては 2 つの産学官連携体制の構築があげられます。これらについてはすでに昨年の年報序文で一部述べていますが，本号の本文中に適切な掲載場所がないことから，以下で再度ご紹介しておきます。

一つは，南水研が現在取り組んでいるスマ養殖に関する「媛スマ普及促進協議会」の設立です。同協議会は，南水研が採択された文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラム「水産養殖王国愛媛発，スマをモデルとして新養殖産業創出と養殖産業の構造改革（H29 ～ R3 年度）」における事業プロデュース活動の一環として設立した「スマ販売戦略検討会」を，スマの生産，販売をコントロールするプラットフォームに発展させたもので，生産者，漁業団体，愛南町，愛媛県，愛媛大学が参画しています。協議会の下には，「媛スマ販売戦略専門部会」と「媛スマ養殖研究専門部会」の 2 つの専門部会があり，スマ養殖の技術開発と産業化を車の両輪として推進していく強力な産学官連携体制が整ったこととなります。

もう一つの産学官連携体制は，「宇和海水温情報システム運営協議会」です。黒潮の影響を受ける宇和海では，水温変動が非常に大きく，水産業に正負両面で様々な影響を与えているため，水温情報は非常に重要です。このため，愛媛大学，愛媛県，愛媛県漁連などが過去 20 年以上にわたって宇和海沿岸に水温計を設置して，リアルタイム水温情報を配信してきていましたがこれらを包括的に管理する体制はありませんでした。そこで，2017 年度に愛媛大学と愛媛県が採択された総務省の「IoT サービス創出支援事業」により水温測点が大幅に増加したことを機に，水温計全体を管理する新たな体制を構築することとなり，



魚介類供養碑

愛媛県（水産研究センター，県庁水産課），沿岸市町（伊方町，八幡浜市，西予市，宇和島市，愛南町），愛媛県漁業協同組合連合会（宇和海漁業協同組合協議会，愛媛県魚類養殖協議会，愛媛県真珠養殖協同組合協議会，愛媛県真珠貝養殖漁業協同組合協議会を含む），愛媛大学（南予水産研究センター，沿岸環境科学研究センター，理工学研究科電子情報工学専攻）が参画する「宇和海水温情報システム運営協議会」が12月に設立されました。このシステムによる様々な水温情報は，理工学研究科の小林教授（南水研兼任）らが作成したWEBページ「You See U-Sea」で配信されており，宇和海水産業の恒久的なインフラとしての役割を果たしつつあります。

以上の二つの協議会は，機関の性格上，愛媛県によって運営されていますが，愛媛大学の研究が基盤となったものであり，特筆すべき本学の地域連携活動といえると思います。

次に教育関係のトピックですが，2019年度は社会共創学部の学生8名を初めて同学部の卒論生として南水研に迎え，無事卒業させることができました。卒業生は，大学院への進学その他，水産，食品，釣り具，運輸関係の会社等に就職しています。南水研にはこれまで農学部から同学部の海洋生産科学特別コースと環境科学コースの学生を中心に受け入れていましたが，海洋生産科学特別コースが2016年度に新設された社会共創学部の海洋生産科学コースに移行し，定員も5名から10名に増加しました。これにより，南水研で受け入れる学生も増加しました。松山から100km以上遠隔で様々な点で不便な南水研ですが，地域連携の実践には最適の地であり，この地で逞しく育った学生をこれからも多く送り出して行きたいと考えています。

昨年度末頃から始まったコロナ禍は，まだ収束の気配を見せず，人々の生活や産業は多くの影響を受けており，漁業も例外ではありません。漁業の中でも，高級魚を生産する養殖業では，外食での消費の比率が高いためコロナ禍の影響は大きく，生産額のおよそ9割を養殖が占める宇和海沿岸は深刻な打撃を受けています。こうした状況の中で，コロナ禍克服に向けて大学の施設としてできることは限られているかもしれませんが，地域に根ざす研究センターとしてできる限りの努力をしていきたいと考えております。関係各位におかれましては，より一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2020年10月

愛媛大学南予水産研究センター

センター長 武岡 英隆

# 1. センター組織と研究概要

## (1) 組織の概要

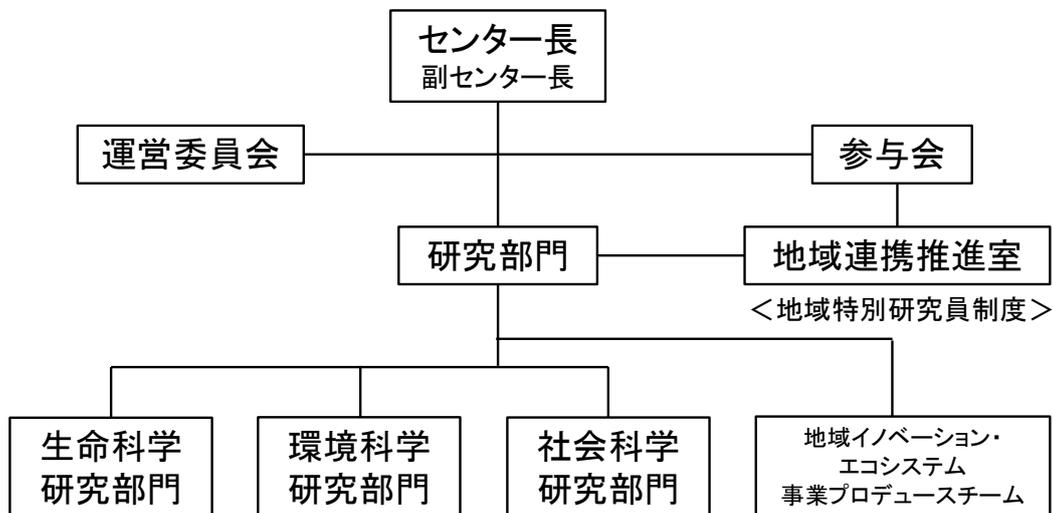
愛媛大学には、学部や研究科などにまたがる横糸的な組織として 4 つの機構（教育・学生支援機構、社会連携推進機構、先端研究・学術推進機構、国際連携推進機構）があります。南予水産研究センター（以下、南水研）は、これらのうち社会連携推進機構に属する研究センターです。社会連携推進機構には令和 2 年 10 月現在 12 のセンターがありますが、これらは役割により産学連携推進部門と地域連携推進部門に分類されており、南水研は地域連携推進部門の中で地域産業特化型のセンターに位置づけられています。

南水研は、漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく、最先端の生命科学による高度な生産技術の開発、環境科学による養殖漁場環境の保全、社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった、「生命」、「環境」、「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため、研究部門は、

- (1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
- (2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
- (3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」

によって構成されています。また、地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチームは、2017～2021 年の間、文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムにより、南水研が愛媛県と共同で開発した新養殖魚種「スマ」の本格的事業化に向けた活動を推進するチームです。

南水研の組織構成における大きな特徴は、参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は、社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく、地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で、センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています（p.43）。地域連携推進室は、これまでの地域連携・研究支援室を廃止して 2018 年度に新たに設置された組織で（p.46）、地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度（p.45）も運営しています。この制度は、自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し、受け入れ教員とともに研究を進める制度で、2020 年度は 13 名の方が登録されています。



## (2) 各部門の研究概要

### 生命科学研究部門

水産養殖は、海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し、利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには、対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し、それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では、水産養殖生物を生命科学の視点から解析し、生命科学の技術を駆使して、水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが、「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて、これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

### 環境科学研究部門

愛媛県南予地域に接する宇和海は、リアス式の複雑な海岸地形を持ち、水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり、魚介類の養殖に最適な環境です。さらに、サンゴを育む清浄な海は風光明媚で、足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では、このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在、赤潮や魚病による被害を抑え、養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」、地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

### 社会科学研究部門

社会科学研究部門は、社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより、持続可能な発展を目指して、適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら、二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で、社会構造論・生活ネットワーク論、産業文化論・地域文化論の観点から、水産業や漁村における社会構造や生活文化を探求し、その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で、経済理論（経営論・管理論）をもとに、水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し、その振興策を提案しています。

## (3) 教職員一覧(2020年度)

センター長： 武岡 英隆

(※ 2020年9月までに退任した教職員)

### 専任教員

松原 孝博	教授	生命科学研究部門 (副センター長)
後藤 理恵	准教授	生命科学研究部門
高木 基裕	教授	環境科学研究部門
清水 園子	准教授	環境科学研究部門
若林 良和	教授	社会科学研究部門
竹ノ内徳人	准教授	社会科学研究部門

## 兼任教員

菅原 卓也	教授	生命科学研究部門 (農学研究科)
今村 健志	教授	生命科学研究部門 (医学系研究科)
高橋 学	教授	生命科学研究部門 (社会共創学部)
松枝 直人	教授	環境科学研究部門 (農学研究科)
小林 真也	教授	環境科学研究部門 (理工学研究科)
森本 昭彦	教授	環境科学研究部門 (沿岸環境科学研究センター)

## 特定職員(教員・研究員)

金尾 聡志	教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム
斎藤 大樹	准教授	生命科学研究部門
Miloš Havelka	助教	生命科学研究部門
西宮 攻	助教	生命科学研究部門
Dipak Pandey	研究員	生命科学研究部門
竹内 久登	研究員	環境科学研究部門
遠藤 充	研究員	生命科学研究部門 (2020年4月～)
* Tapas Chakraborty	助教	生命科学研究部門 (2020年3月まで)
* Sipra Mohapatra	助教	生命科学研究部門 (2020年3月まで)

## 客員教授等

西永 豊光	客員教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム (SEN KAI Food Service LLC)
郡司島宏美	客員准教授	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト
* 亀岡 洋一	客員教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム (2020年6月まで)

## 客員研究員

山木 勝		生命科学研究部門 (愛媛県立宇和島水産高等学校教諭)
山下 浩史		生命科学研究部門 (愛媛県農林水産研究所水産研究センター担当係長)
深田 陽久		生命科学研究部門 (高知大学農学部准教授)
伊藤 克敏		環境科学研究部門 ((国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所主任研究員)
藤原 謙		環境科学研究部門 (ウミトロン(株)代表取締役)
阿部 覚		社会科学研究部門 ((株)ミナトフーズ企画室長)

## 地域特別研究員

清水 陽介		生命科学研究部門 (愛南町)
田中 俊也		生命科学研究部門 ((株) 神明水産)
大西 光		生命科学研究部門 (大西水産 (有))
林 大地		生命科学研究部門 (愛南町)
吉原 勇作		環境科学研究部門 (愛南町)
垣本 一真		環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)

廣瀬 琢磨	環境科学研究部門 (愛南町)
濱田 茂樹	環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)
山本 次郎	環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)
兵頭 重徳	社会科学研究部門 (愛南町)
高橋 裕司	社会科学研究部門 (愛南町)
藤本 吉信	社会科学研究部門 (愛南町)
濱 哲也	社会科学研究部門 (愛南町)

### 事務・技術職員

渡邊 弘昇	チームリーダー	船越ステーション
橋岡 千寿	事務補佐員	船越ステーション
高橋 瑞穂	事務補佐員	船越ステーション
中井 優希	事務補佐員	船越ステーション
日野 真成	事務補佐員	西浦ステーション
重見 暢子	部員	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム
明上奈緒美	部員	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト
竹田 夏美	研究補助員	船越ステーション
猪崎真由美	研究補助員	船越ステーション
大野祥司郎	技術員	西浦ステーション
上根 真帆	研究補助員	西浦ステーション
安部 杏子	研究補助員	西浦ステーション
清水 優子	研究補助員	西浦ステーション
*竹川 理佐	事務補佐員	船越ステーション (2020年6月まで)
*市川 衛	研究補助員	西浦ステーション (2020年3月まで)

## 2. 研究者要覧(専任・兼任教員, 特定教員・研究員, 客員教員, 2020年度)

### 専任教員

#### 武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

職 名: センター長 社会連携推進機構特命教授

沿岸環境科学研究センター(兼任)

所属学会: 1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 水産海洋学会

専門分野: 1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学

研究課題: 1. 沿岸海域の流動と物質輸送 2. 豊後水道の急潮と底入り潮 3. 養殖場の物質循環と環境保全

#### 松原 孝博 Matsubara Takahiro

職 名: 副センター長 教授(生命科学研究部門)

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース(兼任)

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース(兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻(併任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本比較生理生化学会

専門分野: 1. 水産増養殖学 2. 魚類繁殖生理学

研究課題: 1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究 4. 魚類の受精における卵-精子相互作用に関する研究

#### 後藤 理恵 Goto Rie

職 名: 准教授(生命科学研究部門)

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース(兼任)

愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース(兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻(併任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野: 魚類繁殖生理学

研究課題: 1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類性統御技術開発 5. 魚類借腹生産技術開発

#### 高木 基裕 Takagi Motohiro

職 名: 教授(環境科学研究部門)

農学部 生物環境学科 環境保全学コース(兼任)

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース(兼任)

連合農学研究科 生物資源生産学専攻(併任)

所属学会: 1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本魚類学会 4. 日本生物地理学会

専門分野: 1. 水族保全学 2. 水産育種学

研究課題: 1. 野生魚介類, 放流魚介類の保全・生態研究 2. 養殖魚介類の遺伝・育種研究

## 清水 園子 Shimuzu Sonoko

職 名：准教授（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（併任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会

専門分野：1. 養殖環境学 2. 魚病学 3. 魚類生理学

研究課題：1. ICTを活用した赤潮・魚病対策に関する研究 2. 魚病発生メカニズムに関する研究  
3. 赤潮発生メカニズムに関する研究

## 若林 良和 Wakabayashi Yoshikazu

職 名：教授（社会科学研究部門）

副学長（広報担当）

広報室 室長

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任），コース長

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任），  
コース長

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（併任）

所属学会：1. 日本カツオ学会 2. 地域漁業学会 3. 漁業経済学会 4. 日本食育学会 5. 日本社会  
学会 6. 日本文化人類学会 7. 日本民俗学会

専門分野：1. 水産社会学 2. カツオ産業文化論 3. 食育実践論（ぎょしょく教育論） 4. 黒潮文  
化論 5. 社会調査論

研究課題：1. 水産地域の社会構造（漁村社会の構造的アプローチ）に関する研究  
2. 水産地域の生活文化（漁村生活の文化的アプローチ）に関する研究  
3. 水産コミュニティを基盤とした産業振興と地域活性化に関する研究  
4. 地域性と歴史性からみたカツオの産業と文化に関する研究  
5. ぎょしょく教育（総合的水産版食育）・食育のコンテンツとメソッドに関する研究  
6. 地域誌（史）の視点を重視した漁撈文化と漁場利用に関する研究  
7. 水産業と漁村の多面的機能をもとにした地域水産振興システムの構築に関する研究  
8. 定性分析に向けた質的調査としてのフィールドワークの技法と実践に関する研究

## 竹ノ内 徳人 Takenouchi Naruhito

職 名：准教授（社会科学研究部門）

農学部 生物資源学科 資源・環境政策学専門教育コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（併任）

所属学会：1. 漁業経済学会 2. 地域漁業学会 3. 日本沿岸域学会 4. 日本協同組合学会

専門分野：1. 水産経済・経営学 2. 水産物マーケティング論 3. 水産物ブランド論

研究課題：1. 養殖業経営に関する研究 2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究 3. 水産物マ  
ーケティングに関する研究 4. 水産物のブランド化に関する研究

## 兼任教員

### 菅原 卓也 Sugahara Takuya

職 名：教授（農学研究科生命機能学専攻）

学長特別補佐

先端研究・学術推進機構 副機構長（学術企画室 室長）

農学研究科附属食品健康科学研究センター センター長

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門

学術支援センター センター長（兼任）

学術支援センター 遺伝子解析部門 部門長（併任）

地域協働センター西条（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

植物工場研究センター（兼任）

所属学会：1. 日本農芸化学会 2. 日本栄養・食糧学会 3. 日本食品科学工学会 4. 日本食品免疫学会 5. 日本アレルギー学会 6. 日本動物細胞工学会 7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF)

専門分野：1. 食品機能学 2. 動物細胞工学

研究課題：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究 2. 柑橘成分の抗アレルギー効果に関する研究 4. アカモクの保健機能に関する研究 究 3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究 4. 機能性食品開発

### 今村 健志 Imamura Takeshi

職 名：教授（医学研究科分子病態学講座）

プロテオサイエンスセンター（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 日本癌学会（評議員，監事） 2. 日本がん分子標的治療学会（理事，学術集会会長） 3. 日本骨代謝学会（評議員，あり方委員会委員） 4. 日本整形外科学会（専門医） 5. 日本分子生物学会 6. 日本生化学会 7. 米国骨代謝学会（ASBMR）

専門分野：1. バイオイメージング 2. TGF- $\beta$  のシグナル伝達 3. がんと骨の生物学

研究課題：1. 生体深部観察のための2光子励起顕微鏡の開発 2. 広範囲生体高速イメージングのための光シート顕微鏡の開発 3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発 4. TGF- $\beta$  ファミリーのシグナル伝達の解析 5. がん転移の分子メカニズムの解析 6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

### 高橋 学 Takahashi Manabu

職 名：教授（社会共創学部産業イノベーション学科）

理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

所属学会：1. 日本機械学会 2. 日本材料学会 3. 日本複合材料学会 4. 中国・四国工学教育協会 5. 日本塑性加工学会

専門分野：1. 材料力学 2. 機械材料・材料加工

研究課題：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発 2. AI技術を用いた赤潮プランクト

ン判別システムの開発 3. 養殖用疑似生き餌開発 4. 真珠層分離装置の開発

## 松枝 直人 Matsue Naoto

職 名：教授（農学研究科生物環境学専攻）

南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 土壌肥料学会 2. 環境除染学会

専門分野：1. 環境保全学 2. 水圏環境学

研究課題：1. 土壌鉱物やゼオライトを利用した環境汚染物質の吸着除去 2. 途上国貧困層の飲料水の簡易浄化 3. 養魚場での赤潮被害を抑制する資材の開発

## 小林 真也 Kobayashi Shinya

職 名：教授（理工学研究科情報システム工学専攻）

南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4. 日本工学教育協会 5. 日本感性工学会 6. IEEE 7. ACM

専門分野：1. 情報工学 2. 通信工学

研究課題：1. ICT（情報通信技術）の社会応用 2. 分散処理システムに関する研究

## 森本 昭彦 Morimoto Akihiko

職 名：教授（沿岸環境科学研究センター）

南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 3. 衛星海洋学

研究課題：1. 東シナ海・日本海の物質循環 2. 豊後水道の底入り潮 3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

## 特定教員

## 金尾 聡志 Kanao Satoshi

職 名：教授（地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム）

地域イノベーション・エコシステム副事業プロデューサー兼研究開発・知財コーディネーター

所属学会：1. 地域漁業学会

専門分野：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産） 3. 水産経済・経営学

研究課題：1. スマ養殖経営収支モデルの作成 2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究 3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

## 斎藤 大樹 Saito Taiju

職 名：准教授（生命科学部門）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域

### Miloš Havelka

職 名：助教（生命科学研究部門）

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：Aquaculture genetics and genomics

研究課題：1. Genomic resources of kawakawa 2. Sea water tolerance in amago salmon

### 西宮 攻 Nishimiya Osamu

職 名：助教（生命科学部門）

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：1. 水族繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究

## 研究員

### Pandey Dipak

職 名：特定研究員（生命科学部門）

所属学会：1. 日本水産学会 2. American Fisheries Society

専門分野：1. 魚類繁殖生理学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚類の内分泌に関する研究 2. スマの種苗生産に関する研究 3. PIT-タグによる魚の初期幼生のラベリング 4. TALEN と CRISPR を用いた魚のゲノム編集

### 遠藤 充 Mitsuru Endoh

職 名：特定研究員（生命科学部門）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 水産育種研究会

専門分野：1. 遺伝育種学 2. 発生生物学

研究課題：1. スマ未分化生殖細胞の効率的選択分取方法の開発 2. スマ借腹宿主の妊性抑制に関する新技術開発

### 竹内 久登 Takeuchi Hisato

職 名：特定研究員（環境科学部門）

所属学会：1. 日本魚病学会 2. 日本水産学会

専門分野：1. 魚病学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚病病原体の検出手法に関する研究 2. 魚病細菌の性状に関する研究

## 客員教員

### 西永 豊光 Nishinaga Toyomitsu

職 名：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）

地域イノベーション・エコシステム事業プロデューサー チーム 事業プロデューサー

専門分野：1. 養殖魚の海外市場調査 2. 水産物のロジスティクス及び販売促進

**郡司島 宏美 Gunjishima Hiromi**

職 名：客員准教授

地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム 人材育成担当

所属学会：都市住宅学会

専門分野：1. 住居学 2. まちづくり

研究課題：大学生の男女共同参画意識について

### 3. 研究プロジェクト(専任教員, 特定教員・研究員, 2019年度)

#### センター共通

1. 「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」—水産養殖王国愛媛発, 「スマ」をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革, 文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」(2017～2021年度), 137,520千円(2019年度)

#### 松原孝博

##### 【科研費】

1. 基盤研究 A : in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現. 研究期間:平成 28-令和 2 年度. 研究費 900 千円 (分担)

##### 【受託研究】

1. 農林水産省事業 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業 (地域戦略プロジェクト) 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大. 平成 28-令和元年度. 研究費 2,749 千円 (代表)
2. 愛媛県 令和元年度伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 親魚管理および出荷技術開発. 1,500 千円 (代表)
3. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 研究分担. 令和元-3 年度. 7,693 千円 (令和元年度分)

#### 後藤理恵

##### 【科研費】

1. 基盤研究 B : 生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発. 平成 29-令和 2 年度, 研究費総額 14,990 千円 (代表)
2. 挑戦的萌芽: 細胞取り込み能をもつ「コンピテント胚」の開発. 平成 29-令和元年度. 研究費総額 4,800 千円 (代表)
3. 基盤研究 A : in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現. 研究期間:平成 28-令和 2 年度. 研究費配分額 900 千円 (分担)

##### 【受託研究】

1. 農林水産技術会議 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト), 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大, 担当中課題, 平成 28-令和元年度, 2,749 千円 (令和元年度分).
2. 愛媛県 令和元年度伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 分担: 親魚管理および出荷技術開発, 1,500 千円 (令和元年度分)
3. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 研究統括. 令和元-3 年度. 7,693 千円 (令和元年度分).

#### 高木基裕

##### 【受託研究】

1. 沿岸磯焼け対策と新水産加工業創出のためのガンガゼ駆除とその利用法の開発, 愛媛大学産学連携推進事業, 600 千円 (代表)
2. 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大, 生研機構, 1,046

千円（分担）

3. 愛南町漁港区域海洋生物生態系調査，愛南町，770 千円（代表）
4. 深浦漁港区域海洋生物生態系調査，愛媛県，66 千円（代表）
5. 那賀川のアユに関する DNA 分析，徳島大学，770 千円（代表）

## 清水園子

### 【共同研究】

1. 愛南町・愛南漁協・久良漁協「愛南町海域における赤潮・魚病早期検知および発生予測システムの開発」
2. 愛媛大学理工学研究科・愛媛大学社会連携推進機構，愛媛県水産研究センター「双方向通信を用いた赤潮・魚病対策のための『水産情報コミュニケーションシステム』の開発」
3. 愛媛県・愛媛大学沿岸環境科学研究センター・水産研究教育機構増養殖研究所・愛南町・愛南漁協「ICT を利用した養殖魚の感染性疾患予防システム構築のための基盤研究」
4. 愛媛大学農学部環境産業応用化学研究室，社会連携推進機構紙産業イノベーションセンター「新規赤潮防除剤の研究開発」
5. 水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所，九州大学，愛南町，愛南漁協「環境汚染がおよぼす養殖魚への影響の実態調査-環境調和型養殖システムの構築を目指した湾内全域徹底検討」

### 【受託研究】

1. （代表）愛南町受託研究，令和元年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」，1，518 千円
2. （分担）平成 30 年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」．令和元年度．研究費合計 760 千円．

## 若林良和

### 【科 研 費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究 — 「ぎょしょく」の体系化とツール開発—，令和元年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）・（一般），780 千円（2018 ～ 2022 年度：総額 4,160 千円），（代表）

## 竹ノ内徳人

### 【共同研究】

1. 竹ノ内徳人：スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発のうち「課題 2-(3)高精度有害物質測定及び安全性検証，農水省，800 千円（分担）」

## 斎藤大樹

### 【科 研 費】

1. 挑戦的萌芽（分担）：細胞取り込み能をもつ「コンピテント胚」の開発．研究期間：平成 29- 令和元年度．研究費総額 4,800 千円．
2. 基盤研究 B（分担）：生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発．研究期間：平成 29- 令和 2 年度，研究費総額 13,700 千円．
3. 基盤研究 A（分担）：in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現．研究期間：平成 28- 令和 2 年．研究費総額 41,730 千円．

【受託研究】

1. 農林水産技術会議 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）、新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大，担当中課題，平成 28- 令和元年度，2,749 千円（令和元年度分）。
2. 愛南町 令和元年度愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発。研究費合計 1,573 千円（単年度）。

## 4. 研究成果(2019年度)

(兼任教員は水産関係の成果のみ記載)

### 生命科学研究部門

#### 【著書】

1. Psenicka M, Saito T. Chapter 16: Specificity of Germ Cell Technologies in Sturgeons. (2020) In: Yoshida M., Asturiano J. (eds) Reproduction in Aquatic Animals. Springer, Singapore. 2020 Mar 29. [https://doi.org/10.1007/978-981-15-2290-1\\_17](https://doi.org/10.1007/978-981-15-2290-1_17)

#### 【学協会誌】

1. Kentaro Higuchi, Yukinori Kazeto, Yuichi Ozaki, Toshiya Yamaguchi, Yukinori Shimada, Yoshiaki Ina, Satoshi Soma, Yoshitaka Sakakura, Rie Goto, Takahiro Matsubara, Issei Nishiki, Yuki Iwasaki, Motoshige Yasuike, Yoji Nakamura, Aiko Matsuura, Shukei Masuma, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Tetsuji Masaoka, Takanori Kobayashi, Atsushi Fujiwara, Koichiro Gen. Targeted mutagenesis of the ryanodine receptor by Platinum TALENs causes slow swimming behaviour in Pacific bluefin tuna (*Thunnus orientalis*). Scientific Reports, 9: 13871 (25 September 2019).
2. Ayumi Bandai, Takahiro Matsubara, Rie Goto, Taketo Hayakawa, Yukio Iwatsuki, Hiroyuki Motomura. Sexual dichromatism and dimorphism in the goatfish *Parupeneus spilurus* (Perciformes: Mullidae) in southern Japan. Ichthyological Research, 67: 203-211 (14 September 2019).
3. Rie Goto, Taiju Saito. A state-of the art review of surrogate propagation in fish. Theriogenology, 133:216-227 (15 July 2019).
4. Kentaro Highchi, Rie Goto, Junpei Konishi, Yoshiaki Ina, Yukinori Kazeto, Koichiro Gen. Early development of primordial germ cells in Pacific bluefin tuna *Thunnus orientalis*. Theriogenology, 131: 106-112 (June 2019).
5. Effrosyni Fatira, Miloš Havelka, Catherine Labbé, Alexandra Depincé, Martin Pšenička, Taiju Saito. A newly developed cloning technique in sturgeons; an important step towards recovering endangered species. Scientific Reports 9, 10453, 2019.
6. Ura, K., Suzuki, N., Numata, H., Tsue, S., Satoh, M., Takei, N. Higuchi, I., Yuhi, T., Nishimiya, O., Takagi, Y. Quantitative changes of major yolk protein in the coelomic fluid and gonads of the sea urchin, *Mesocentrotus nudus*, during the reproductive cycle. Bull. Fish. Sci., Hokkaido Univ. 69 (1): 29-36. Doi: 10.14943/bull.fish.69.1.29 2019 Aug 7
7. Fatira E, Havelka M, Labbé C, Depincé A, Pšenička M, Saito T. A newly developed cloning technique in sturgeons; an important step towards recovering endangered species (2019) Sci Rep. 2019 Jul 18;9(1):10453. doi: 10.1038/s41598-019-46892-4.
8. Baloch AR, Franěk R, Saito T, Pšenička M. Dead-end (dnd) protein in fish-a review (2019) Fish Physiol Biochem. 2019. doi: 10.1007/s10695-018-0606-x.
9. Franěk R, Baloch AR, Kašpar V, Saito T, Fujimoto T, Arai K, Pšenička M. Isogenic lines in fish – a critical review (2020) Reviews in Aquaculture 12: 1412–1434.

#### 【報告書など】

1. 農林水産省 平成 28 年度革新的技術開・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)新規マダコ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大. 令和元年度研究報告書. 2020年2月.
2. 文科省 平成 29 年度地域イノベーションエコシステム形成プログラム. 「えひめ水産イノベー

ション・エコシステムの構築」, 事業化プロジェクト中心研究者. 担当: コア技術 1 ~ 3. 平成 31 年度報告書. 2020 年 3 月.

3. 農林水産省 令和元年度 イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 令和元年度報告書. 2020 年 3 月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara.. Construction of linkage map and genome-based chromosome build in a new marine aquaculture species kawakawa *Euthynnus affinis*. Joint Conference of the 12th International Marine Biotechnology Conference and the 12th Asia Pacific Marine Biotechnology Conference. Shizuoka, Japan Sep. 9-13, 2019 (September 12).
2. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Building genomic resources of kawakawa, *Euthynnus affinis*, Marine Genomics Symposium. The Annual Meeting of the Japanese Society for Fisheries Science, Tokyo, Japan (invited lecture - lecture canceled due to outbreak of COVID-19; abstract published in the abstract book).
3. Nishimiya O., Hiramatsu N., Todo T. Studies on mechanisms underlying the control of dual vitellogenin gene expressions in inshore hagfish (*Eptatretus burgeri*). 2019 年水産学科青年学者论坛, 暨上海高校国际青年学者论坛. 19- 20 Jun. Shanghai, China.
4. Mitsuru Endoh, Fumika Shima, Rei Asanuma, Miloš Havelka, Etsuro Yamaha, Takafumi Fujimoto, Katsutoshi Arai. Aneuploid sperm of *Danio rerio* female x *D. nigrofasciatus* male hybrid, 7<sup>th</sup> International Workshop on the Biology of Fish Gametes, Session I-O3, Rennes, France, (September 3rd 2019).
5. 遠藤 充, 島 文華, 浅沼 黎, Miloš Havelka, 山羽悦郎, 藤本貴史, 荒井克俊. ゼブラフィッシュ♀×スポッテッドダニオ雄雑種の作出と雑種由来精子を用いた戻し交配, 平成 31 年度日本水産学会春季大会, 733, 東京, 2019 年 3 月 29 日.
6. Roman Franěk, Taiju Saito, Tomáš Tichopád, Martin Pšenička. Intraperitoneally grafted blastomeres can differentiate into functional gametes in zebrafish. 7th International Workshop on the Biology of Fish Gametes, September 2nd–6th, 2019, Rennes, France.
7. Amin Golpour, Caroline Broquard, Sylvain Milla, Hadiseh Dadras, Abdul Rasheed Baloch, Taiju Saito, Martin Pšenička. Determination of annual reproductive cycle in sterlet, acipenser ruthenus using histology and ultrasound imaging. 7th International Workshop on the Biology of Fish Gametes, September 2nd–6th, 2019, Rennes, France.
8. Roman Franěk, Taiju Saito, Tomáš Tichopád, Michaela Fučíková, Zoran Marinović, Jelena Lujčić, Ákos Horváth, Vojtěch Kašpar, Martin Pšenička. Germ cell manipulation as a tool for common carp isogenic lines production and management. 7th International Workshop on the Biology of Fish Gametes, September 2nd–6th, 2019, Rennes, France.

## 環境科学研究部門

【学協会誌】

1. Eitaro Sawayama, Shin-Ichi Kitamura, Kei Nakayama, Kohei Ohta, Hiroyuki Okamoto, Akiyuki Ozaki, Motohiro Takagi: Development of a novel RSIVD-resistant strain of red sea bream (*Pagrus major*) by marker-assisted selection combined with DNA-based family selection. *Aquaculture*, 506, 188-192, 2019 年 4 月
2. Yoshifumi Sumizaki, Ryota Kawanishi, Mikio Inoue, Motohiro Takagi, Koji Omori: Contrasting effects of

dams with and without reservoirs on the population density of an amphidromous goby in southwestern Japan. *Ichthyological Research*, 66, 319-329, 2019 年 6 月

3. 高木基裕・登山賢斗・山田裕貴・酒井治己. 沖縄島のクサフグ個体群の遺伝的異質性. *FaunaRyukyuna*, 49, 1-11, 2019 年 7 月
4. 高木基裕・高尾勇斗・水野晃秀・家山博史. 日本におけるアワモチ科貝類の遺伝的多様性. *FaunaRyukyuna*, 49, 23-37, 2019 年 7 月
5. Satoshi Tomano, Shota Yasuhara, Motohiro Takagi, Tetsuya Umino: The genetic variability and population structure of the marbled rockfish *Sebastes marmoratus* in western Japan, as inferred by microsatellite DNA markers. *Fisheries Science*, 85, 961-970, 2019 年 11 月
6. 清水孝昭・佐藤陽一・高木基裕. 徳島県におけるオヤニラミの遺伝的集団構造と攪乱. *魚類学雑誌*, 66, 195-203, 2019 年 11 月
7. Eitaro Sawayama, Hironori Nakao, Wataru Kobayashi, Takashi Minami, Motohiro Takagi: Identification and quantification of farmed red sea bream escapees from a large aquaculture area in Japan using microsatellite DNA markers. *Aquatic Living Resources* 32, No. 26, 2019 年 12 月
8. 大本将人・山田裕貴・高木基裕. 愛媛県来村川水系に生息するタニガワカゲロウ属幼虫の形態および遺伝的特徴. *南予生物*, 19, 52-67, 2020 年 1 月
9. Takeuchi, H., D. Nakano, M. Iwadare, R. Tomono, T. Imai, K. Hori, H. Izumi, A. Namba, S. Shimizu, T. Nakai and N. Mano (2019): Evaluation of Pathogenicity of *Edwardsiella ictaluri* to riverine fish species using an immersion infection method. *Fish Pathology*, 54, 61-63.

#### 【報告書など】

1. 高木基裕：沿岸磯焼け対策と新水産加工業創出のためのガンガゼ駆除とその利用法の開発。愛媛大学産学連携推進事業研究成果報告書（2019）
2. 高木基裕：「新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大。平成 30 年度「革新的技術開発・緊急展開事業」研究成果報告書（2019）
3. 高木基裕：愛南町漁港区域海洋生物生態系調査報告書（2019）愛南町
4. 高木基裕：深浦漁港区域海洋生物生態系調査（2019）愛媛県
5. 高木基裕：那賀川のアユに関する DNA 分析。令和 1 年度受託研究実績報告書（2019）徳島大学

#### 【学会発表，各種講演・報告など】

1. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Construction of linkage map and genome-based chromosome build in a new marine aquaculture species kawakawa, *Euthynnus affinis*. *Marine Biotechnology Conference 2019*, Shizuoka, 9 月，講演要旨集: P11-9. (2019)
2. 竹内久登, 難波亜紀, 高瀬智洋, 清水園子, 中井敏博, 間野伸宏 (2019): 河川におけるアユのエドワジエラ・イクタルリ感染症の発生要因に関する研究, 令和元年度日本水産学会秋季大会, 2019 年 9 月, 福井市
3. 清水園子, Tapas Chakraborty, 竹内久登, 川上秀昌, 原川翔伍, Sipra Mohapatra, 太田耕平, 松原孝博 (2019): マダイエドワジエラ症早期検出のための血液中マイクロ RNA の探索, 令和元年度日本水産学会秋季大会, 2019 年 9 月, 福井市
4. 清水園子. 愛南漁業協同組合御荘支所 赤潮勉強会 講師 2020 年 2 月 28 日 愛南町
5. 寺田淑乃, 坂本理穂, 白石悠介, 山本智規, 清水園子, 赤潮プランクトンの分類・計測システムへの人工知能技術の適用, 計測自動制御学会四国支部 2019, 2019 年 12 月 7 日 【優秀講演賞受賞】

## 社会科学研究部門

### 【著 書】

1. 若林良和：第1章 地域水産物を利用した「ぎょしょく教育」のコンテンツと地域的意義 — 「愛南ぎょレンジャー」をもとにした検討—。愛媛大学・松山大学 愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム（代表：若林良和，市川虎彦）『愛媛学を拓く』創風社：11 - 34（2019.09）
2. 若林良和・市川虎彦：プロローグ・本書の意図と概要，エピローグ・本書の全体的な総括。愛媛大学・松山大学 愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム（代表：若林良和，市川虎彦）『愛媛学を拓く』創風社：1 - 5，217 - 219（2019.09）

### 【学協会誌】

1. 山下三香子・若林良和：食生活改善推進員の活動からみたソーシャル・キャピタルの関係性 — 地域包括ケアシステムのボトムアップに貢献する食育リーダー—。日本食育学会誌 13(3)：211 - 221（2019.07）
2. 竹ノ内徳人：消費サイドからみる魚食普及と水産物販売促進の展望，地域漁業研究，59(1)，10-19，地域漁業学会，2019。
3. 松井隆宏，原田幸子，中原尚知，三宅和彦，竹ノ内徳人\*：協業化に対する漁業者意識—徳島県のシラス漁業を事例に—，地域漁業研究，59(2)，81-88，地域漁業学会，2019。

### 【その他の雑誌】

1. 若林良和：沖縄県本部町におけるカツオの産業と文化 — 「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ(3)—。愛媛大学社会共創学部紀要 3(2)：1-14（2019.09）
2. 土居波留加・若林良和・山本和博：女性就農者ネットワークの課題と対策 — 愛媛県の「さくらひめネットワーク」に関する実態分析—。愛媛大学農学部紀要 64：34-42（2019.12）
3. 若林良和・川上哲也：宮古・池間島のカツオ産業文化誌(2) — 「ぎょしょく」魚職からみた生活世界—。宮古島市総合博物館紀要 24：1-13（2020.03）
4. 大橋裕一・若林良和：愛媛大学開学 70 周年記念連載特集，第1回 地域に信頼され，愛される愛媛大学を目指して — 愛大の「今」と「これから」—（開学 70 周年の節目を弾みに，さらなる高みへ）。月刊愛媛ジャーナル 33-1（385）：66-69（2019.07）
5. 竹ノ内徳人，西永豊光：養殖マダイの輸出戦略と北米市場の開拓，養殖ビジネス，56(11)，21-24，10月（2019）
6. 竹ノ内徳人：統計データから見る日本の養殖マダイの現状と価値向上，養殖ビジネス，57（3），4-9，3月（2020）

### 【報告書など】

1. 若林良和ら 25 名：愛南町食育推進協議会企画・編集 愛なん食育プランⅢ（第3次食育推進計画）。愛南町：1-57（2020.03）

### 【学会発表，各種講演・報告など】

1. 若林良和：情報リテラシー入門 文章表現力・情報収集力の向上。令和元年度認定看護管理者教育課程セカンドレベルプログラム（愛媛県看護協会），愛媛看護会館（松山市），2019年5月11日。
2. 若林良和：個別報告・座長。漁業経済学会第66回大会，東京海洋大学（東京都港区），2019年6月30日。
3. 若林良和：愛媛大学開学70周年及び第10回ホームカミングデイ合同祝賀会 開会挨拶。ANAクラウンプラザホテル松山，2019年11月11日

4. 若林良和：カツオ学（カツオ検定）へのいざない。第9回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2019年11月16日。
5. 若林良和：「魚職」でカツオを探る③。第9回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2019年11月17日。
6. 若林良和：個別報告・座長。地域漁業学会第61回大会（長崎大会），長崎大学水産学部（長崎県長崎市），2019年12月1日。
7. 若林良和：7つの「ぎょしょく」で問い直すカツオの魅力。令和元年度カツオフォーラム in 志摩，志摩市志摩文化会館（三重県志摩市），2020年1月25日。
8. 若林良和：黒潮の恵みであるカツオ食文化の持続的発展に必要なことは何か，パネリスト。令和元年度カツオフォーラム in 志摩，志摩市志摩文化会館（三重県志摩市），2020年1月25日。
9. 若林良和：日本農業遺産の認定申請（造船材を算出した飼肥林業と結びつく「日南かつお一本釣り漁業」） 助言・監修。宮崎県日南市，2019年2月～2020年3月（2020年3月27日）。
10. 若林良和：「池間カツオ史」など掲載 市博物館紀要第23号を発刊。宮古毎日新聞，2019年4月18日。
11. 若林良和：南予の課題解決10テーマで探る 「愛媛学を拓く」出版 愛媛大・松山大共同研究チーム。愛媛新聞，2019年11月23日。
12. 若林良和：「カツオの達人」目指し50人挑戦 枕崎マイスター検定。南日本新聞，2019年11月26日。
13. 若林良和：「持続的発展」テーマ 三重・志摩市で25日開催 第10回カツオフォーラム。水産経済新聞，2020年1月20日。
14. 若林良和：7つの「ぎょしょく」でカツオ産業の発展を 環境と食文化を話し合う。三重テレビ放送，2020年1月27日。
15. 若林良和：愛媛大学と私（開学70周年事業のあらまし，多国籍教員としての用務，水産研究と食育）。Dr.ミュウミュウの「次の方，どうぞ」，FM愛媛，2020年3月6・13・20日。
16. 竹ノ内徳人：水産業の6次産業化－マーケティングの面から－，令和元年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座，愛媛県宇和島市，5月（2019）
17. 竹ノ内徳人：水産商品の海外展開，いま必要なこと，令和元年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座－実践編－コーディネーター，愛媛県西予市，7月（2019）
18. 岡本佳奈子，竹ノ内徳人：水産業活性化に向けた愛媛県産フルーツフィッシュの可能性，令和元年度高大連携授業「課題研究」成果発表会，愛媛大学愛大ミュージアム，9月（2019）
19. 原田幸子，松井隆宏，中原尚知，三宅和彦，笠井雅也，竹ノ内徳人：漁業の協業化・法人化に関する一考察－徳島県シラス船引網漁業を事例に－，地域漁業学会2019年度第61回大会，長崎大学水産学部，11月（2019）
20. 竹ノ内徳人：レジデント型研究機関としての地域連携と人材育成～愛媛大学南予水産研究センターの目指す「新しい水産学」～，地域漁業学会2019年度第61回大会シンポジウム報告，長崎大学水産学部，12月（2019）

## 兼任教員（水産関係の成果のみ記載）

### 菅原卓也

#### 【学協会誌】

1. Nishi K, Kanayama Y, Kim I.-H., Nakata A., Nishiwaki H. and Sugahara T.: Docosahexaenoyl

ethanolamide mitigates IgE-mediated allergic reactions by inhibiting mast cell degranulation and regulating allergy-related immune cells., Sci. Rep., 9(1), 16213, 2019.

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 西 甲介・金山佳毅・In-Hae Kim・菅原卓也：DHA とその代謝物の抗アレルギー効果，日本動物細胞工学会 2019 年度大会 (JAACT2019)，要旨 p.59 (2019 年 7 月 18-19 日 鹿児島市)
2. Kanayama Y., Kim I-H., Sugahara T. and Nishi K.: Anti-allergic effect of docosahexaenoyl ethanolamide (DHEA) on RBL-2H3 cells and pollinosis mice., The International Conference of Food Safety and Health 2019 (FSAH 2019) (November 26-28, 2019, Taichung, Taiwan)
3. Kanayama Y., Kim I-H., Sugahara T. and Nishi K.: Anti-allergic effects of docosahexaenoyl ethanolamide (DHEA), a metabolite of docosahexaenoic acid (DHA)., 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019)/The 12th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF2019) (December 1-5, 2019, Kobe, Japan)
4. 金山佳毅・In-Hae Kim・菅原卓也・西 甲介：多価不飽和脂肪酸 DHA の代謝物の抗アレルギー効果，日本農芸化学会中四国支部第 56 回講演会，要旨 p.75 (2020 年 1 月 25 日 松山市)

【特許】

1. 菅原卓也・箆島克裕・近藤智彦・末光友和：マクロフェージ活性化剤 (特許第 6647623 号) (2020 年 1 月 17 日登録) (カツオ削粉抽出物のマクロフェージ活性化効果)
2. 菅原卓也・箆島克裕・近藤智彦・末光友和：アレルギー症状緩和剤 (特許第 6664739 号) (2020 年 2 月 21 日登録) (煮干しエキスのアレルギー症状緩和効果)

## 松枝直人

【報告書】

1. 平成 31 年度ものづくり補助金事業 (秀長水産株式会社・小課題担当) 報告書

## 小林真也

1. Development of Seawater Temperature Announcement System for Improving Productivity of Fishery Industry , Yu Agusa, Takuya Fujihashi, Keiichi Endo, Hisayasu Kuroda, and Shinya Kobayashi, Proceedings of the 11th Asian Conference on Intelligent Information and Database Systems (ACIIDS 2019), Yogyakarta, Indonesia, April, 2019.
2. 多深度海水温連続観測装置の平均修復時間短縮を目的とした自己診断機能の開発，井村 洋介，遠藤 慶一，黒田 久泰，小林 真也，2020 年電子情報通信学会総合大会，広島，2020 年 3 月.
3. 3D 映像を利用した稚魚数計数システムの開発， 神原 滉一，遠藤 慶一，黒田 久泰，小林 真也，情報処理学会第 82 回全国大会，石川，2020 年 3 月.
4. 養殖漁業従事者の作業負担軽減を目的とした受発注システムの開発，山本 恭平，遠藤 慶一，黒田 久泰，小林 真也，情報処理学会第 82 回全国大会，石川，2020 年 3 月.
5. 水産業の生産効率改善を目的とした海水温情報告知伝達システムの開発，阿草 裕，藤橋 卓也，遠藤 慶一，黒田 久泰，小林 真也，マルチメディア，分散，協調とモバイル(DICOMO2019)シンポジウム，福島，2019 年 7 月.

【講演】

1. 「You see U-Sea で海況が見える化」，小林 真也，アグリビジネス創出フェア，2019 年 11 月
2. 「地域活性化に貢献する ICT」，小林 真也，宇和島経済研究会，2019 年 12 月
3. 「水産業と IoT デザイン思考で考えるシステム論」，小林 真也，えひめ水産イノベーション

## 森本昭彦

### 【学会発表】

1. 森本昭彦・藤田修哉・武岡英隆・郭 新宇 (2019): 豊後水道の底入り潮の発生特性, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 千葉, 5 月.
2. 前谷佳奈・森本昭彦・美山 透・郭 新宇 (2019): 豊後水道の底入り潮の発生過程, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 千葉, 5 月.
3. 前谷佳奈・森本昭彦・郭 新宇・美山 透 (2019): 豊後水道の底入り潮の進入経路, 2019 年度日本海洋学会秋季大会, 富山, 9 月.
4. Morimoto, A. (2019): Eutrophication in coastal seas in Asia. International Workshop on Emergent Issues of Marine Ecosystems in the Southeast Asia: For Sustainable Use of Marine Ecosystem Services, Kashiwa, Chiba, September.

## 5. 学会及び審議会・委員会等の活動(専任教員・2019年度)

### 武岡英隆

#### 【学協会役職】

1. 日本海洋学会沿岸海洋研究会顧問
2. 瀬戸内海研究会議理事

#### 【各種審議会・委員会委員等】

1. 独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム専門委員
2. 愛媛県環境影響評価審査会委員

### 松原孝博

#### 【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及委員
3. 環境省 化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
4. 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業開発研究ステージ 評議委員
5. 愛南漁業協同組合 非常勤監事

### 後藤理恵

#### 【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及進協議会委員
3. 外国人技能実習制度 JITCO 監査 (愛南漁業協同組合)
4. 愛媛県立南宇和高等学校評議員
5. 水産政策審議会企画部会特別委員

### 高木基裕

#### 【学協会役職(理事・委員等)】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会中国四国支部幹事
3. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
4. 日本水産増殖学会評議員
5. 水生動物編集委員

#### 【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県内水面漁場管理委員会委員
2. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
3. 四国西予ジオミュージアム展示内容検討委員会委員
4. 愛媛県野生生物保護推進員

### 清水園子

#### 【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 2019 年度水産動物防疫体制整備モデル事業 愛南町養殖魚類防疫体制整備協議会プログラム  
作成委員

## 若林良和

### 【学協会役職（理事・委員等）】

1. 日本カツオ学会 顧問
2. 地域漁業学会 理事
3. 漁業経済学会 理事
4. 日本食育学会 理事
5. 地域漁業学会 学会誌編集委員会 委員長（2019年11月まで）
6. 地域漁業学会 学会誌編集委員会 委員（2019年12月まで）
7. 日本食育学会 学会誌編集委員会 委員

### 【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 共同研究員
2. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会 委員
3. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会 委員
4. 愛媛県愛南町食育推進協議会 委員
5. 愛媛県愛南町食育協働部会 副会長
6. 愛媛県愛南町次世代水産業振興ネットワークシステム推進協議会 委員
7. 愛媛県今治市食育推進協議会 顧問
8. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会 委員
9. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会 委員長
10. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部 顧問
11. 株式会社テレビ愛媛番組審議会 委員

## 竹ノ内徳人

### 【学協会役職（理事・委員等）】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事

### 【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員
2. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会・委員

## 6. 教育活動(専任教員・2019年度)

### 松原孝博

#### 【指導学生】

社会共創学部学生 (4年生) : 3名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 1名

大学院連合農学研究科・博士課程

(主指導) : 1名

#### 【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 3件

- ・大型ブリ作出に向けた基盤的研究
- ・サツキマス精子の凍結保存に関する研究
- ・アオリイカの生殖輸管系の構造に関する研究

#### 【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 水産生物環境学, 愛媛大学社会共創学部
2. 前学期, 養殖学, 愛媛大学社会共創学部
3. 前学期, 水産生物学 (主担), 愛媛大学社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学 I (主担), 愛媛大学社会共創学部
5. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (分担), 愛媛大学社会共創学部
6. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
7. 前学期, 産業経済論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
8. 後学期, 産業イノベーションセミナー I (主担), 愛媛大学社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト基礎演習 (主担), 愛媛大学社会共創学部
10. 前学期, プロジェクト実践演習 (主担), 愛媛大学社会共創学部
11. 後学期, プロジェクト応用演習 (主担), 愛媛大学社会共創学部
12. 後学期, 地域産業調査 (分担), 愛媛大学社会共創学部
13. 前学期集中, 産業技術調査 (分担), 愛媛大学社会共創学部
14. 後学期, 海洋生産科学概論 (主担), 愛媛大学社会共創学部
15. 後学期, 新入生セミナー B (分担), 愛媛大学社会共創学部
16. 前学期集中, 社会共創演習 I (分担), 愛媛大学社会共創学部
17. 集中, インターンシップ実践 (分担), 愛媛大学社会共創学部
18. 集中, インターンシップ応用 (分担), 愛媛大学社会共創学部
19. 集中, 次世代水産イノベーション論 (主担), 愛媛大学社会共創学部
20. 通年, 卒業研究 (主担), 愛媛大学社会共創学部
21. 後学期, 水圏生命科学 I (主担), 愛媛大学大学院農学研究科
22. 前学期集中, 水圏生命科学 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科
25. 集中, 水圏生産学演習 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科
26. 集中, 水圏生産学実験 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科

【その他】

1. 愛媛県立宇和島南中等教育学校スーパーグローバルハイスクール事業 SGH 事業課題研究講師

後藤理恵

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：3名

大学院農学研究科・修士課程

（副指導）：1名

大学院連合農学研究科・博士課程

（副指導）：1名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：3件

- ・スマの不妊化誘導の技術開発
- ・スマの味に関する研究
- ・スマの筋繊維密度に関する基礎的研究

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産生物学（分担），社会共創学部
2. 前学期，養殖環境保全学（分担），社会共創学部
3. 前学期，海洋生産科学Ⅰ（主担），社会共創学部
4. 前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（主担），社会共創学部
5. 前学期，水圏生産学特論（分担），社会共創学部
6. 後学期，水族生理学（主担），社会共創学部
7. 後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（分担），社会共創学部
8. 前学期，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
9. 前学期，プロジェクト実践演習（分担），社会共創学部
10. 後学期，プロジェクト応用演習（分担），社会共創学部
11. 後学期，地域産業調査（分担），社会共創学部
12. 前学期集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
13. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
14. 後学期，新入生セミナーⅡ（分担），社会共創学部
15. 前学期集中，社会共創演習Ⅰ（分担），社会共創学部
16. 集中，インターンシップ実践（分担），社会共創学部
17. 集中，インターンシップ応用（分担），社会共創学部
18. 集中，次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
19. 後学期，水圏生命科学Ⅰ（主担），大学院農学研究科
20. 前学期集中，水圏生命科学Ⅱ（主担），大学院農学研究科
21. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
22. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

【その他】

1. 愛媛県立宇和島南中等教育学校スーパーグローバルハイスクール事業 SGH 事業課題研究講師.

## 高木基裕

### 【指導学生】

農学部学生（4年生）：1名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：2名

大学院連合農学研究科・博士課程

（主指導）：1名

（副指導）：2名

### 【卒業論文・修士論文・博士論文】

修士論文：1件

・飼育繁殖マダコの複数父性と交接行動

### 【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水圏資源環境学概論（分担），愛媛大学農学部
2. 前後学期，水族保全学実習，愛媛大学農学部
3. 前後学期，環境保全セミナー，愛媛大学農学部
4. 前後学期，卒業研究，愛媛大学農学部
5. 後学期，環境保全学概論（分担），愛媛大学農学部
6. 後学期，生物学（分担），愛媛大学農学部
7. 後学期，環境分子生物学（分担），愛媛大学農学部
8. 後学期，水産生物学，愛媛大学農学部
9. 後学期，環境保全学実験Ⅲ（分担），愛媛大学農学部
10. 前学期，水圏生産学特論（分担），愛媛大学大学院農学研究科
11. 前後学期，食料生産学特別演習，愛媛大学大学院農学研究科
12. 前後学期，食料生産学特別実験・実習，愛媛大学大学院農学研究科
13. 前後学期，水圏生産学演習Ⅰ，愛媛大学大学院農学研究科
14. 前後学期，水圏生産学実験Ⅰ，愛媛大学大学院農学研究科
15. 前後学期，水圏生産学演習Ⅱ，愛媛大学大学院農学研究科
16. 前後学期，水圏生産学実験Ⅱ，愛媛大学大学院農学研究科
17. 後学期，外書購読，愛媛大学大学院農学研究科
18. 後学期，水圏環境科学Ⅰ，愛媛大学大学院農学研究科
19. 前学期，海洋生産科学概論（分担），愛媛大学社会共創学部
20. 前学期，海洋生産科学Ⅰ，（分担），愛媛大学社会共創学部
21. 前学期，海洋生産科学Ⅱ，（分担），愛媛大学社会共創学部

## 清水園子

### 【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：2名

大学院連合農学研究科・博士課程

（副指導）：1名

### 【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：2件

- ・愛南町福浦湾における底質環境特性の解析
- ・イソマルトオリゴ糖添加飼料が養殖マダイの生理状態に及ぼす影響

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前期 養殖環境保全学（分担） 社会共創学部
2. 前期 水産生物学（分担） 社会共創学部
3. 前期 産業技術調査（分担） 社会共創学部
4. 前期 プロジェクト実践演習（分担） 社会共創学部
5. 前期 海洋生産科学Ⅰ（分担） 社会共創学部
6. 前期 海洋生産科学セミナーⅠ（分担） 社会共創学部
7. 前期 産業イノベーションセミナーⅡ（分担） 社会共創学部
8. 前期 水圏生産学特論（分担） 大学院農学研究科
9. 後期 海洋生産科学概論（分担） 社会共創学部
10. 後期 水族生理学（分担） 社会共創学部
11. 後期 地域産業概論（分担） 社会共創学部
12. 後期 プロジェクト基礎演習（分担） 社会共創学部
13. 後期 プロジェクト応用演習（分担） 社会共創学部
14. 後期 産業イノベーションセミナーⅠ（分担） 社会共創学部
15. 後期 水圏環境科学Ⅱ, 大学院農学研究科
16. 通年 インターンシップ実践（分担） 社会共創学部
17. 通年 インターンシップ応用（分担） 社会共創学部
18. 通年 社会共創演習Ⅰ（分担） 社会共創学部
19. 通年 社会共創演習Ⅱ（分担） 社会共創学部
20. 集中 次世代水産イノベーション論（分担）, 社会共創学部

【他大学等での講義】

1. 松山大学 社会学応用特殊講義 愛媛学（分担）

## 若林良和

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

（副指導・副査）：1名

大学院連合農学研究科・博士課程

（主指導・主査）：1名

【学位論文】

博士論文：1件（主指導・主査1件）

- ・高齢者食育リーダーとしての食生活改善推進員の活動分析を通じたソーシャル・キャピタルの醸成 —地域包括ケアシステムの拡充に向けて—

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期, こころと健康<食と健康>（分担）, 愛媛大学共通教育
2. 前学期, 新入生セミナー A（分担）, 愛媛大学共通教育（社会共創学部）
3. 前学期, 社会共創学概論（分担）, 愛媛大学社会共創学部
4. 前学期, プロジェクト実践演習（分担）, 愛媛大学社会共創学部
5. 前学期, 産業イノベーションセミナーⅡ（分担）, 愛媛大学社会共創学部

6. 前学期, 産業イノベーション論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
7. 前学期, 質的データの収集と分析 (分担), 愛媛大学社会共創学部
8. 前学期, 産業技術調査: 集中講義 (分担), 愛媛大学社会共創学部
9. 前学期, 産業経済論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
10. 前学期, 水産社会学, 愛媛大学社会共創学部
11. 前学期, 海洋生産科学 I (分担), 愛媛大学社会共創学部
12. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (分担), 愛媛大学社会共創学部
13. 前学期, 海洋生産科学 II (分担), 愛媛大学社会共創学部
14. 前学期, 海洋生産科学セミナー II (分担), 愛媛大学社会共創学部
15. 前学期, 農山漁村論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
16. 前学期, 基礎農業経営経済学 (分担), 愛媛大学農学部
17. 前学期, 水産社会論, 愛媛大学農学部
18. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
19. 前学期, 水圏生産学演習 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
20. 前学期, 水圏生産学実験 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
21. 前学期, 水圏生産学演習 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
22. 前学期, 水圏生産学実験 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
23. 前学期, 食料生産経営学 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
24. 前学期, 食料生産経営学演習 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
25. 前学期, 食料生産経営学演習 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
26. 前学期, 食料生産経営学特別演習 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
27. 後学期, 地域調査法入門 (分担), 愛媛大学社会共創学部
28. 後学期, プロジェクト基礎演習 (分担), 愛媛大学社会共創学部
29. 後学期, プロジェクト応用演習 (分担), 愛媛大学社会共創学部
30. 後学期, 産業イノベーションセミナー I (分担), 愛媛大学社会共創学部
31. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
32. 後学期, 地域産業概論 (分担), 愛媛大学社会共創学部
33. 後学期, 産業文化論, 愛媛大学社会共創学部
34. 後学期, 水圏社会科学 I, 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
35. 後学期, 水産社会学, 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
36. 後学期, 水圏生産学演習 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
37. 後学期, 水圏生産学実験 I (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
38. 後学期, 水圏生産学演習 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
39. 後学期, 水圏生産学実験 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
40. 後学期, 食料生産経営学 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
41. 後学期, 農山村調査 (集中・分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
42. 後学期, 食料生産経営学演習 III (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
43. 後学期, 食料生産経営学演習 IV (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
44. 後学期, 食料生産経営学特別演習 II (分担), 愛媛大学大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)

【他大学等での講義】

1. 高知大学教育学部 (社会学概論・社会学, 集中)

2. 高知大学医学部（家族社会学，集中）
3. 高知大学農林海洋科学部（海洋科学概論（分担），集中）
4. 松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部（文化人類学，通年）
5. 松山大学人文学部（社会学応用特殊講義・愛媛学(分担)，後学期）
6. 松山看護専門学校（文化人類学，後学期）

## 竹ノ内徳人

### 【指導学生】

農学部学生（3年生）：4名  
 （4年生）：4名  
 大学院農学研究科・修士課程  
 （主指導）：2名

### 【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：4件

- ・徳島県産鱧の現状と今後の展望～徳島県小松島市漁業協同組合の取り組みを事例として
- ・地産地消の推進における街路市の現状と展望～高知市「日曜市」を事例として～
- ・カフェ業界の実態と展望～カフェ2店舗を事例として～
- ・コミュニティ・ビジネスの現状と可能性

### 【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，専攻セミナーⅡ，農学部
2. 前学期，基礎農業経営経済学（分担）2年生，農学部
3. 前学期，水産社会科学演習（分担），農学部
4. 前学期，海域社会経済論，農学部
5. 前学期，水産経済論，社会共創学部
6. 後学期，食料生産経営学立案セミナー，農学部
7. 後学期，地域農林漁業論（分担），社会共創学部
8. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
9. 後学期，専攻セミナーⅡ，農学部
10. 前学期，食料生産経営学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
11. 前学期，食料生産経営学Ⅰ（分担），大学院農学研究科
12. 前学期，食料生産経営学演習Ⅲ（分担），大学院農学研究科
13. 前学期，食料生産経営学特別演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
14. 前学期，食料生産経営学Ⅲ（分担），大学院農学研究科
15. 前学期，海洋生産科学研究（分担），大学院農学研究科
16. 後学期，海域社会論，大学院農学研究科
17. 後学期，食料生産経営学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
18. 後学期，食料生産経営学Ⅳ（分担），大学院農学研究科
19. 通年，食料生産経営学ケーススタディ（分担），大学院農学研究科

### 【他大学等での講義】

・松山短期大学 「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」（通年）

## 7. 地域・社会連携活動(2019年度)

### (1) シンポジウム, 講演会, 展示等の開催(主催, 共催, 後援等)

#### センター共通

1. ぎゅぎゅっと愛南夏の陣 参加 5月12日
2. 愛南町水産業振興懇話会 参加 7月18日, 3月5日
3. 愛媛県プラスチック資源循環シンポジウム, 主催: 愛媛県, 協力: 沿岸環境科学研究センター, 南予水産研究センター, 9月16日
4. 愛南町水産フォーラム 2月1日
5. 愛南町水産セミナー 2月14日
6. 南予水産研究センター魚介類供養碑除幕式, 供養祭, 2月13日
7. 南予水産研究センター卒論・修論発表会 2月27日



ぎゅぎゅっと愛南夏の陣での展示



魚介類供養碑除幕式

#### 小林真也

1. アグリビジネス創出フェア「水産業の重要情報である海水温情報を可視化, 定点観測情報から空間情報を補間したシステムの紹介」, 11月20-22日, 東京ビッグサイト

### (2) 地域特別研究員との共同研究

研究題目	地域特別研究員	受入教員
新規養殖品種の開発	清水 陽介	松原 孝博
スマ養殖	田中 俊也	松原 孝博
水産物養殖技術の開発	大西 光	松原 孝博
新規養殖生物の開発	林 大地	松原 孝博
魚類養殖現場で発生する病気について	吉原 勇作	清水 園子
魚類養殖現場で発生する病気について	垣本 一真	清水 園子
優良アコヤガイ作出に係る技術開発	廣瀬 琢磨	高木 基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発	濱田 茂樹	高木 基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発	山本 次郎	高木 基裕
「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究	兵頭 重徳	若林 良和
「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究	高橋 裕司	若林 良和
漁村における地域文化の研究	藤本 吉信	若林 良和
町内水産物の販売およびブランド化の研究	濱 哲也	竹ノ内徳人

### (3) 各種行事への参加

1. 南宇和ライオンズクラブ主催海岸清掃ボランティア参加 教職員学生 20名程度 6月1日
2. 南予水産カップソフトボール大会 教職員学生 15名程度 6月1日
3. 愛南町トライアスロン大会ボランティア参加 教職員学生 15名程度 6月8日
4. 第42回西浦湾ソフトバレーボール大会参加 教職員学生 15名程度 6月30日
5. 南予水産カップソフトボール大会 教職員学生 15名程度 10月26日
6. 愛南町統一地方祭参加（船越，内泊地区）教職員学生 15名程度 11月3日



海岸清掃ボランティア(6月1日)



南予水産カップソフトボール大会(10月26日)

### (4) 地域連携教育

1. 南宇和高校講演会（講師：高木基裕）5月29日
2. 宇和島南中等教育学校 SGH 事業課題研究（講師：高木基裕）3日間
3. 中学生 JOB チャレンジ（職場体験実習）受け入れ（御荘中学校）7月1～5日
4. 中学生 JOB チャレンジ（職場体験実習）受け入れ（城辺中学校）7月8～12日
5. 中学校理科委員会実技研修会（講師：後藤理恵）7月30日
6. 松山北高校出張講義（講師：高木基裕）12月5日
7. 自然観察会 八幡浜の魚類・鳥類観察会（松山市小学生対象）（講師：高木基裕）12月8日

### (5) 一般向け講演等

#### 武岡英隆

1. STI for SDGs アワードシンポジウム，海はいのちー「養殖王国えひめ」に向けた地域と愛媛大学の取組，国立研究開発法人科学技術振興機構主催，富士ソフトアキバプラザ，4月16日
2. 愛媛水産イノベーションスキル修得講座，南予水産研究センターと宇和海海況情報システムの概要，南予水産研究センター西浦ステーション，6月22日
3. 愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム，愛媛県の養殖業の課題と南予水産研究センターの取組，地域協働研究センター西条，9月7日
4. 愛南町水産セミナー，真珠養殖漁場としての宇和海の環境，愛南町役場，2月14日

#### 若林良和

1. 若林良和：カツオ学（カツオ検定）へのいざない．第9回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2019年11月16日．
2. 若林良和：「魚職」でカツオを採る③．第9回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業

振興センター（鹿児島県枕崎市），2019年11月17日．

3. 若林良和：7つの「ぎょしょく」で問い直すカツオの魅力．令和元年度カツオフォーラム in 志摩，志摩市志摩文化会館（三重県志摩市），2020年1月25日．
4. 若林良和：黒潮の恵みであるカツオ食文化の持続的発展に必要なことは何か，パネリスト．令和元年度カツオフォーラム in 志摩，志摩市志摩文化会館（三重県志摩市），2020年1月25日．

## 清水園子

1. 清水園子．愛南漁業協同組合御荘支所 赤潮勉強会 講師 令和2年2月28日 愛南町

## (6) 一般向け雑誌記事等

## 武岡英隆

1. 旧町役場と廃校を地域産業の研究拠点に．JST産学官連携ジャーナル，2019年5月号

## 若林良和

1. 若林良和ら25名：愛南町食育推進協議会企画・編集 愛なん食育プランⅢ（第3次食育推進計画）．愛南町：1-57（2020.03）

## 高木基裕

1. 興味尽きない博士の図鑑—愛媛大ミュージアム生物の特別展—．愛媛新聞，2019年6月17日

## 8. 新聞記事・テレビ出演等(2019年度)

### 武岡英隆

1. 「中四国ライブネット 愛媛発！プラスチック資源循環シンポジウム」南海放送ラジオ，2019年9月22日

### 若林良和

1. 「池間カツオ史」など掲載 市博物館紀要第23号を発刊. 宮古毎日新聞，2019年4月18日.
2. 南予の課題解決 10 テーマで探る 「愛媛学を拓く」出版 愛媛大・松山大共同研究チーム. 愛媛新聞，2019年11月23日.
3. 「カツオの達人」目指し50人挑戦 枕崎マイスター検定. 南日本新聞，2019年11月26日.
4. 「持続的発展」テーマ 三重・志摩市で25日開催 第10回カツオフォーラム. 水産経済新聞，2020年1月20日.
5. 7つの「ぎょしょく」でカツオ産業の発展を 環境と食文化を話し合う. 三重テレビ放送，2020年1月27日.
6. 愛媛大学と私（開学70周年事業のあらまし，多国籍教員としての用務，水産研究と食育）. Dr. ミユウミユウの「次の方，どうぞ」，FM愛媛，2020年3月6・13・20日.

### その他

1. 愛媛新聞（2019年5月29日）「愛南特産品 協力隊・林さん開発 丸干し 味よし栄養よし」
2. 愛媛新聞（2019年6月5日）「南宇和ライオンズクラブが海岸清掃」
3. 愛媛新聞（2019年6月7日）「高校生が水産業の現状や展望学」
4. 水産経済新聞（2019年6月24日）「完全養殖スマで講演 松原南水研副センター長 育種，販路拡大を加速」
6. 愛媛新聞（2019年7月28日）「愛南の養殖技術シリアへ 新タンパク源難民問題解決の一助に」
7. 愛媛新聞（2019年8月6日）「愛南 南宇和高生が水産業学ぶ 真珠核入れ真剣作業」
8. 愛媛 CATV たうんニュース（2019年9月14日）「えひめイノベーション起業塾 塾生最終プレゼンテーション 「スマート漁業実現に向けた AI を用いた赤潮プランクトン判別システムの構築」のビジネスプラン」
9. 愛媛新聞（2019年10月16日）「スマ養殖の技術学ぶ 愛南で南宇和高生」
10. 愛媛新聞（2019年11月6日）「総称「媛スマ」食感味わって 県決定 他産地と差別化図る」
11. 愛媛新聞（2020年2月4日）「スマ輸出体制確立へ 愛南 5カ年事業中間報告」
12. NHK 松山，ニュース，（2020年2月13日，14日）「愛媛大の施設 魚介類の供養碑除幕」
13. 愛媛新聞（2020年2月18日）「研究に貢献 魚に感謝 愛南・愛媛大水産センター 供養碑 建立し除幕式

## 9. センター視察・来訪者(2019年度)

		人
2019年5月7日	伊方町役場	1
2019年5月8日	岡山理科大学	20
2019年5月9日	愛南町水産課	2
2019年5月10日	昭和産業	4
2019年5月13日	(株)愛南サンフィッシュ	2
2019年5月14日	MEL	5
2019年5月14日	三洋テクノマリン株式会社	7
2019年5月28日	全国町村会財政委員会	20
2019年5月31日	愛大大学院理工学研究科	11
2019年6月6日	愛媛県IT推進協議会	9
2019年6月6日	愛媛大学情報工学科	6
2019年6月20日	愛菜町立福浦小学校	20
2019年6月26日	愛媛大学社会共創学部	3
2019年7月2日	一般の方	5
2019年7月5日	愛媛大学農学部	2
2019年8月7日	国際メダカフォーラム	10
2019年8月21日	愛南町教育委員会理科教員	5
2019年8月21日	愛南町水産課	2
2019年8月22日	愛媛大学施設基盤部施設企画化企画チーム	4
2019年8月27日	中国浙江海洋大学	17
2019年8月29日	愛媛県議会議員	1
2019年9月2日	三重県熊野市職員	5
2019年9月3日	シリア国2名他愛南町職員	8
2019年9月3日	国際水産技術開発	4
2019年9月19日	愛媛大学社会共創学部	27
2019年9月20日	産業技術総合研究所北海道センター	2
2019年9月27日	愛南町立一本松小学校	13
2019年9月28日	愛南県立南宇和高等学校	9
2019年10月7日	愛南町立柏小学校	13
2019年10月19日	高知大学	2
2019年11月13日	愛南町立平城小学校	56
2019年12月16日	NHK 松山放送局	1
2020年2月13日	参与会他	18
		(総訪問者数 314人)

# 愛媛大学南予水産研究センター規則

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 152 号

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 30 条第 2 項の規定に基づき、愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、生命科学、環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し、先端科学による漁場調査、水産養殖技術開発、水産業振興等について研究及び教育することにより、地域社会からの水産学への要望に応え、地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第 3 条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 生命科学研究部門
- (2) 環境科学研究部門
- (3) 社会科学研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、愛媛大学農学部センター分室を置くことができる。

(組 織)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第 5 条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第 6 条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第 7 条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 8 条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センタ

一長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第10条 兼任教員は、本学の専任の教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長と協議の上、センター長が学長に推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。

3 専任教員は、センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(顧問)

第12条 センターに、顧問を置くことができる。

2 顧問は、センター長の推薦に基づき、社会連携推進機構長が委嘱する。

3 顧問の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(客員教授等)

第13条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(研究員)

第14条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第15条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(地域特別研究員)

第16条 センターに、地域特別研究員を置くことができる。

2 地域特別研究員に関し必要な事項は、別に定める。

(地域連携推進室)

第17条 センターに、地域連携推進室を置く。

2 地域連携推進室に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第18条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年9月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

# 愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程

平成19年10月10日

規則第 153 号

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛媛大学南予水産研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組 織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議 事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事 務)

第8条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑 則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定め

る。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

## 運営委員名簿

番号	区分	所属部局	職名	氏名
1	1号委員	南予水産研究センター	センター長	武岡英隆
2	2号委員	南予水産研究センター	副センター長	松原孝博
3	3号委員	南予水産研究センター	教授	若林良和
4	3号委員	南予水産研究センター	教授	高木基裕
5	3号委員	南予水産研究センター	准教授	竹ノ内徳人
6	3号委員	南予水産研究センター	准教授	後藤理恵
7	3号委員	南予水産研究センター	准教授	清水園子
8	4号委員	社会共創学部	教授	高橋学
9	4号委員	大学院理工学研究科	教授	小林真也
10	4号委員	大学院医学系研究科	教授	今村健志
11	4号委員	大学院農学研究科	教授	菅原卓也
12	4号委員	大学院農学研究科	教授	松枝直人
13	4号委員	先端研究・学術推進機構 (沿岸環境科学研究センター)	教授	森本昭彦
14	5号委員	社会連携支援部	部長	仁科弘重

(2019年4月1日現在)

## 愛媛大学南予水産研究センター参与会要項

(設置)

第1条 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に、センターの事業及び運営に関して助言等を得るため、愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

(組織)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 社会連携推進機構長
- (2) 大学院農学研究科長
- (3) 社会共創学部長
- (4) 南予水産研究センター顧問
- (5) 南予水産研究センター長及び副センター長
- (6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者 若干人
- (7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

2 前項第7号の委員の任期は、2年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(任務)

第3条 参与会は、センターの事業及び運営に関して、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 地域行政、漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援
- (2) センターにおける研究、教育等への助言・支援
- (3) その他センターの事業及び運営に関する事項

(会議)

第4条 参与会に、座長を置き、社会連携推進機構長をもって充てる。

- 2 座長は、必要に応じて参与会を招集する。
- 3 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 4 座長は、議題に応じ、関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

(事務)

第5条 参与会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、社会連携推進機構長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年1月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年10月29日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

## 愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職 名
愛 媛 大 学	仁 科 弘 重	社会連携推進機構長
	山 内 聡	大学院農学研究科長
	西 村 勝 志	社会共創学部長
	田 辺 信 介	南予水産研究センター顧問（沿岸環境科学研究センター長）
	武 岡 英 隆	南予水産研究センター長
	松 原 孝 博	南予水産研究センター副センター長
	若 林 良 和	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	高 木 基 裕	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	高 橋 学	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	小 林 真 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	今 村 健 志	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	菅 原 卓 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	松 枝 直 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	森 本 昭 彦	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
仁 科 弘 重	南予水産研究センター運営委員会委員 部長	
学 外 有 識 者	岡 原 文 彰	宇和島市長
	清 水 雅 文	愛南町長
	平 田 伸 治	愛媛県農林水産研究所水産研究センター長
	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合連合会 代表理事会長
	立 花 弘 樹	愛南漁業協同組合 代表理事組合長
	竹 田 英 則	久良漁業協同組合 代表理事組合長
	内 倉 長 蔵	愛南町議会 議長
	宇 佐 和 人	愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	浅 野 豊	愛南漁業協同組合 真珠貝養殖協議会長
	濱 田 克 人	久良漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	松 下 定 一	吉田町漁業協同組合 代表理事組合長
	平 井 義 則	宇和島漁業協同組合 代表理事組合長
松 本 嘉 晃	愛媛県認定漁業士協同組合 理事長	

（2019年11月30日現在）

## 愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受入手続)

第2条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは、センターが別に定める申込書に、派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え、愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

(受入承認)

第3条 センター長は、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、地域特別研究員の受入れを決定し、派遣機関の長へ通知するものとする。

(研究方法)

第4条 地域特別研究員は、センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で、センターの研究活動に従事する。

2 地域特別研究員の研究場所は、センター長が確保するものとする。

(研究期間)

第5条 地域特別研究員の研究期間は、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、センター長が決定する。

(報酬等)

第6条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は、本学からは支給しない。

2 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、経費の額を決定する。

(研究料)

第7条 地域特別研究員に係る研究料は、徴収しない。

(研究証明書の交付)

第8条 地域特別研究員が、その研究事項について証明を願い出たときは、センター長は研究証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第9条 地域特別研究員は、研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第10条 地域特別研究員は、この要項に定めるもののほか、センター長の指示に従わなければならない。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、地域特別研究員に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

## 愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第17条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域からのセンターへの要請に関すること。
- (2) センターによる地域連携活動の企画、実施に関すること。
- (3) その他、センターの地域連携活動に関すること。

(組織)

第3条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員
  - ア センターの専任教員
  - イ 地域のステークホルダー 若干人

2 室長は、センター長が指名する専任教員をもって充てる。

3 第1項第2号イの室員は、センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

(任期)

4 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 室長は、推進室に関する業務を掌理する。

2 室員は、推進室の業務を処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成20年4月1日制定）は廃止する。

## 愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職 名
愛 媛 大 学	高 木 基 裕	南予水産研究センター 教授 (地域連携推進室長)
	松 原 孝 博	南予水産研究センター 教授
	若 林 良 和	南予水産研究センター 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター 准教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター 准教授
学 外 有 識 者	岡 田 孝 洋	愛南漁業協同組合 販売促進部長
	中 川 宗 明	久良漁業協同組合 役員
	吉 田 遊	愛媛県立宇和島南中等教育学校 教諭
	喜多川 浩 史	愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭
	橋 本 孝 之	愛媛県立南宇和高等学校 教頭
	守 口 庸 夫	愛南町商工観光課 課長補佐
	尾 川 勝 彦	愛南町水産課 水産振興係長

(2019 年度)

## 愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

委員長	武岡 英隆	南予水産研究センター・センター長
副委員長	松原 孝博	南予水産研究センター・副センター長
	渡邊 弘昇	社会連携支援部社会連携課 TL

愛媛大学南予水産研究センター年報 第12号(2019年度版)

発行：2020年11月

発行者：愛媛大学南予水産研究センター 船越ステーション

〒798-4292 愛媛県南宇和郡愛南町船越1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター 西浦ステーション

〒798-4206 愛媛県南宇和郡愛南町内泊25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター 松山ステーション(社会連携推進機構)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

TEL 089-927-8145 FAX 089-927-8820

URL <http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/>

表紙写真 宇和海の真珠養殖場(愛南町)(撮影者：武岡英隆)